

## 第1回安全登山検討会の概要

- 1 日 時 平成30年6月6日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 富山県民会館4階401会議室
- 3 出席委員 検討会委員18名、オブザーバー3名

### 4 主な意見

#### (1) 富山県内の山岳遭難の現状

- ・ やはり中高年登山者の遭難が多く、発病が思ったより多い。
- ・ 単独登山者の事故は、通報が遅れることが多く、対応に苦慮している。
- ・ 富山県内在住者の遭難が多いというのは、意外だ。
- ・ 室堂を訪れる訪日外国人が増加(全体の約3割)しており、言葉の問題など、受入体制に改善の余地がある。

#### (2) 取組みの現状と今後の課題

##### 【登山届出制度】

- ・ 条例や要綱など、富山県の届出制度は、現状でよい。
- ・ 山小屋でも、独自に登山届を受け付けている。
- ・ 登山計画立案を通じた登山者自らのリスクマネジメントと、登山届提出による有事の際のダメージコントロールという観点から、登山届は重要である。
- ・ 遭難者の約半分が未届けという現状を踏まえ、登山届を提出する方法を増やすことが必要であり、オンライン登山届は有効である。
- ・ オンライン登山届の中でも、全国的に普及しているコンパスが適当である。
- ・ 通年での登山届義務化は、室堂における観光客と登山者の区別の問題もあり、困難と思われる。
- ・ 行き過ぎた管理は、登山本来の面白みを相殺するので、バランスが重要。

##### 【登山指導体制】

- ・ 山小屋において、なるべく1パーティずつ、それぞれに経験や装備などに合わせた指導を行っている。
- ・ 特に立山劔岳では、夏場の雪渓や初秋の初雪等の「雪」に起因する事故が多いので、そのあたりに焦点を当てた指導を心がけている。
- ・ 山小屋での夕食時、山岳警備隊による安全講話を行っている。
- ・ 山小屋と山岳警備隊との協力が重要である。
- ・ 小屋同士の無線通信網を活用した、登山者の動向の共有が、非常に効果的だ。

##### 【登山道等の環境整備】

- ・ 富山県内の登山道は、全国水準よりも整備が進んでいる。
- ・ 雪解け時期などに木道の破損等も見られることから、定期的な点検や継続した整備が必要だが、行き届いていないのが現状である。
- ・ 訪日外国人が、コースの状況を理解しないまま、色々なところへ入り込んだ結果の道迷いなども多い。
- ・ 登山道とハイキングコースの具体的な区分等を行われていない。
- ・ 夏場の一ノ越~雄山間等は、明らかにオーバーユース状態だと思われる。
- ・ 夏場以降の雪渓のように、日を追って激しく変化する登山道の状況を共有できる体制が必要。

### 【情報発信】

- ・ 訪日外国人対応や防災情報提供という観点から、デジタルサイネージのような仕組みが必要。
- ・ 山岳団体として、登山教室や親子登山会等を通じて、安全登山意識の向上を図っている。

### 【通信環境の整備】

- ・ 山岳地域の通信環境整備は、登山者等への情報発信・提供にとって重要。
- ・ 訪日外国人が、山岳地域で携帯電話が使えなかったという話もある。
- ・ 通信インフラ整備は通信業者の使命だと考えており、併せて、I o Tやビッグデータ等を組み合わせた情報発信・共有なども提案したい。

### 【普及啓発活動】

- ・ 国立登山研修所では、これまでも各種研修会を実施している。
- ・ 新規企画として、高校登山部顧問等対象の研修会や、一般登山者向けの「安全登山サテライトセミナー」（東京、名古屋、大阪）の開催を予定している。
- ・ 韓国国立登山管理公団山岳安全センターと連携した、海外向けの情報発信もしていきたい。
- ・ アウトドアメーカーとして、各種講習会やホームページでの啓発活動を行っているが、今後はさらに各活動を充実させたいと考えている。
- ・ アウトドアウェアがファッションとして流行しており、その延長で、これまで山と無縁だった方が、気軽に登山を始めている現状がある。メーカーとして、こういった現状を踏まえての啓蒙活動に取り組んでいる。

### 【雪崩対策】

- ・ 立山連峰をはじめとする富山の山は、とにかく雪が多い。一年を通じて、雪に対する注意が、安全登山にとって非常に重要。
- ・ 室堂での、現地の観測結果等に基づく雪崩情報発信は、非常に有効。
- ・ ただし、最終的に登山者の身を守るのは登山者自身であり、自主的な遭難防止意識の醸成が重要。
- ・ 登山者全体のボトムアップのため、立山連峰をはじめとする富山の山に特化した、県独自の公開講座の開催も一案。

### 【山岳診療】

- ・ 全国の大学医学生との連携や、「立山診療班」参加医学生への各種助成等、後進の育成を視野に入れた連携の強化が必要。
- ・ 室堂診療所の開設期間の拡充と遠隔診療支援体制の構築。
- ・ 山小屋での体調不良等はよくある話なので、そういう時に、山中に医師がいるというのは、非常に安心。今後、山の診療体制の強化は、さらに求められるのではないだろうか。

### 【救助体制】

- ・ 山岳警備隊員の、ヨーロッパ救助先進国への視察研修
- ・ 電動パワーアッセンダー等の装備資器材の充実
- ・ 山岳遭難救助アドバイザー制度の拡充  
等による救助体制の強化を図る。

### 【火山防災・火山ガス対策】

- ・ 室堂の「火山ガス情報ステーション」からの各種観測情報の発信や、火山ガス監視員による観測を実施している。
- ・ 今年7月には、火山ガス情報をインターネットで確認できるシステムが完成予定。